

誰一人取り残さない学びの実現を目指して

～P21「『みんなの笑顔』特別支援教育プロジェクト」の実践より～

「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクト 研究テーマ

みんなが「できた！分かった！」を実感できる授業づくり
～居心地のよい学級を土台にして～

小学校や中学校の学級には、多様な子どもたちが在籍しており、様々な違いがあります。

発達段階 理解のスピード 得意な学び方(見る・聞く・書く・動く等) 認知特性

このような多様な子どもたちがいることを踏まえた授業づくりが、今求められています。「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクトでは、**全ての子どもが安心して学べる学級づくり**を基盤として、**全ての子どもが参加でき、分かりやすく学びやすい授業づくり**について、研究を進めてきました。このページでは、その実践事例を紹介します。

①全ての子どもが安心して学べる学級づくりの取組

Q. 安心して学べる学級づくりに向けて、どのようなことを大切にしていきたいと思いますか。

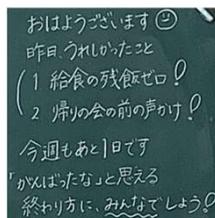
A. 安心して学べる学級づくりに向けて、日常からの教師の子どもたちへの関わり方や日々の取組が大切だと考えます。プロジェクトでは、「一人一人を大切にすること」「子ども同士をつなげること」「学習環境を整えること」を通して、学級づくりを進めてきました。



研究員による安心して学べる「学級づくり」の実践より

①一人一人を大切にすること

- ・健康観察の時に笑顔で子どもと目を合わせる。
- ・黒板にメッセージを書いて伝える。(資料①)
- ・丁寧な言葉かけを意識する。
- ・多様な意見を取り上げて板書し、価値付ける。
- ・行事で一人一人が活躍できる場をつくる。
- ・欠席児童の机や配付物を整える。



資料① 黒板メッセージ

②子ども同士をつなげること

- ・友達とのやり取りを楽しめる活動を取り入れる。(資料②)
- ・友達の話や話を聞く場面を意図的につくる。(ペア、グループ、全体)
- ・友達の話や話を聞いて、「なるほど」「確かに」など反応する力を育てる。
- ・子どもの「分からない」を学級全体で共有し、みんなで考える時間をつくる。



資料② 朝の会の活動

③学習環境を整えること

- ・教師も子どもも、時間を守ることを大切にする。(授業の始まり、終わり等)
- ・生活規律や学習規律を整える。
- ・学級で大切にすることを共有し、折に触れて子どもに立ち返らせる。(資料③)
- ・週予定や活動内容を示し、見通しが持てるようにする。



資料③ 学級のルールの掲示

②全ての子どもが参加でき、分かりやすく学びやすい授業づくりの取組

Q. 学級には多様な子どもたちがいます。全ての子どもに支援をすることは難しいと思いますが、研究員の先生方はどのように取り組まれていますか。

A. 研究員の先生方は、まず、**子どもの実態を丁寧に把握**することを大切にされています。授業づくりでは、**子どもの困り感が生まれそうな場面、支援が必要になる場面を想定し、学級全体の手立てや個別の手立てを考慮して授業に臨まれています。**このような、「(実態が)～だから、…しよう」という意図のある授業づくりが、結果的に子どもの「分かりやすさ」「学びやすさ」につながると感じます。



研究員による「授業づくり」の実践より 【授業づくりで大切にしている2つの視点】

①授業への参加度・活動度を高める

→授業の準備や展開の工夫で高められると考えています。

全員が授業全てに集中することは難しいという前提で

見させる指導より、**見たくなるしかけ**
聞かせる指導より、**聞きたくなるしかけ**



日常生活とつなげた課題提示の例

「先生の悩みを聞いてください。今度ランニングをする時に飲み物を持っていきたいんです。多く飲み物を持っていきたいのですが、どちらの入れ物の方が、多く水が入るでしょうか?」「1年・算数「おおきさくらべ」」…(資料④)



資料④ 子どもの考えた方法で、実際にかさ確かめる。

本時の課題が子どもたちにとって自分事となり、今までの生活経験を生かして比べ方を考えていました。

多様な学習活動の設定

- 「聞く」「書く」以外にも…
- ・「声に出す」
- ・「動作化する」…(資料⑤)
- ・「話す・交流する」



資料⑤ 算数で垂直と平行の意味を確認する時に、動作化を使う。

子ども同士をつなぐ

子どもの「分からない」から、みんなで話し合う。子どもの「もう一度説明して」から、みんなで深め合う。教師はコーディネート役

②オプション(支援の選択肢)の提示

→自己決定⇒主体性発揮の第一歩

学び方や学習の理解度は個々に違うという前提で、子どもが最適な方法を**自己決定**する場面を設定しています。

自力解決の場面で…

「ヒントあり」「ヒントなし」をワークシートの両面に印刷し、使いたい方を選択する。

思考する場面で…

「一人でorペアでorグループで」「先生にヒントをもらって」「教科書を見て」から選択する。

考えをまとめる場面で…

(算数なら)言葉で、式で、図で、絵でまとめる等、自分が表現しやすい方法を選択する。

練習問題を解く場面で…

全員が必ず解く問題の他に、自分の力に応じて「基礎」「発展」から問題を選択する。

振り返りの場面で…(資料⑥)

「レベル1(基本)」または「レベル2(発展)」から、振り返りの視点を選択する。



資料⑥ 振り返りの視点

教師が一人一人の子どもを大切にできる姿勢は、日常の教育活動を通して子どもに確実に伝わります。教師は子どもにとって重要な環境の一つだと考えます。

学級づくりや授業づくりを進める中で、どの研究員の学級においても、子どもが「分からない」と伝えられるようになったり、授業への参加度や活動度が高まったりする等の変化が見られました。「できた!分かった!」を実感できる授業づくりに向けての取組は、「誰一人取り残さない学びの実現」につながるものだと思っています。